

夏休み 普通の夜話編 II

☆ はじめに

お盆休みも終わり季節は秋へと移って行きます。「お盆休み」今時の若い方は本来の意味をご存じかどうか・・・。「盆と正月が一緒に来た」と筆者の世代ではよく例えられる言葉のフレーズですがググってみると「用事が幾つも重なり、非常に忙しいさま。喜ばしい出来事が幾つも重なり、非常にめでたいさま。」とあります。本来のお盆の意味は亡くなった方の魂をお迎えする行事のことで。ではなぜお盆とお正月を一緒に使うのかというと、意味は同じ「魂のお迎え」なのですが、仏事としての意味合いが強いほうがお盆で、神事としての意味合いが強くなったほうがお正月だということらしいです。今は猛暑を避けての夏休みの捉え方が主流となっています。「墓じまい」の時代です。また英語では「お盆休み = Obon Holiday」で会社などが休業する「夏季休業 = Summer Holidays」や個人的に休みを取る「夏季休暇 = Summer vacation」とは違ったお休みみたいな捉え方をしています。イギリスの「Bank holiday」（法律的）的ですが「Obon Holiday」は（風俗習慣的）に使うのが良いと思います。まだまだ暑い日が続きます。残暑厳しい秋、お身体にはくれぐれもお気をつけてお越してください。さて今回のスタジオ夜話、前回同様サウンドドラマ制作のお話ではなく本来のスタジオ夜話？なお話です。筆者の趣味的なお話になりますがお付き合いよろしくお願いたします。

☆ SDGs とは持続可能？

筆者は常々、今言う SDGs に疑問を持っています。本来の意味は「私たちが、この地球で暮らし続けられることを実現するために進むべき道」を模索、実現する行動などをさす言葉です。たとえば「CO2（二酸化炭素）問題、これは小学生でも知っていることなのですが、人間は呼吸する生き物で酸素を取り入れ二酸化炭素を排出して生きています。火力発電や自動車の排気ガスでの CO2 排出量、人間と比較すればそれはそれは想像を絶する膨大な排出量となっています。では自動車は全て電気自動車に換えればそれで済みますか？その燃料（電気）は火力？水力？原子力？CO2 排出の問題に限っては火力は止めるべきだと思います。しかし原子力はひとたび事故を起こすと 100 年単位で環境を破壊します。CO2 排出問題だけでも SDGs に大きな影響があります。ここで CO2 排出問題などを詳しく取り上げるつもりはありません。趣味のお話です。

自動車を例にすれば新しい電気自動車を作るには多くの工場で

CO2 排出が問題となります。モデルチェンジせず 20 年以上乗れる自動車を作ってほしい！！でも筆者はそんな自動車産業の未来には疑問です。20 年以上モデルチェンジせず乗れる車は企業が将来的に利益を確保することが困難だからです。企業の体質が変わること願ってそれまでは今の車を乗り続けます。何かをし続けられる、ということです。かつての排ガス規制、創意工夫で乗り切った現実もあります。筆者の趣味、「創意工夫の SDGs な DIY・オーディオ編」です。

☆ハイエンドマニアには理解できない趣味

マッキン、マークレビンソン、JBL にアルテックじゃなきゃ、ヤマハ フン！という方々が多くいらっしゃるオーディオマニアの不思議な世界。プロのエンジニアの中にも同じような方々がいらっしゃいます。SSL や STUDER は良いけどヤマハ？という人たちです。（ヤマハさんを例にしてごめんなさい）。以前からお話しているのですが「良い音、好い音」の違い、目的にかかった機器の選択、が大切です。個人的な価値観の違いで他の批判は聞いていて聞き苦しいものです。そうした中で最近アナログ LP やカセットテープに興味を持つ人が若干見受けられるようになってきたとお話しました。真空管アンプがハイエンドなのかは価値観の違いが大きく左右しますが中古市場では高値です。長くなりましたが筆者の趣味「DIY オーディオ編」は OP アンプであろうと真空管であろうとオーディオ製品で修理可能なものは修理して使う SDGs なものなのです。筆者宅の物置にあった古い古～い機材を引っ張り出して修理したり、最近ではジャンク品を探しては再利用することも楽しんでいきます。先日修理したカセットデッキはそれはそれは「好い音」で鳴っています。ヤマハの DM2000 と同社小型モニター SP で収録した JAZZ のライブ CD（大手レコード会社）はとても素晴らしい演奏と音でした。これが SSL と Genelec だとどう変わるのか教えてください。

☆部品集めはジャンクショップが面白い

最近手に入れたジャンクはヤフオクで落札した電源装置。この電源は AC100V/100V の大容量絶縁トランスを使ったものです。昔のトランスレスラジオや 50CA10 などヒーター電圧 50V 真空管の修理などに使います。これで修理中の感電リスクが少なくなります。1200 円 + 送料 1300 円でした。送料の方が高い。ヤフオ

資料写真



八王子大和田店 店頭 大和田店は他の全てのオフ店が出店

業務用オーディオ機器から業務用ゲーム機器まで



デノン製の業務用 我が家でも現用で使用しています。



こんなゲーム機器まで売ってます。アーケードゲーム機 値札には保証期間が明記されていたので動作品です。



右奥にリペアスタッフの作業スペースハードオフ



女性のスタッフがスマホ基板の修理をしています。作業台には一応オシロスコープや発振器などもあります。商品の修理や状態説明のラベル作りもここでを行います。ハードオフの要のスタッフたちです。



中古オーディオ機器の棚 中古品はジャンクと違い透明のビニール包装で価格と補償期間が書かれています。こんな棚が5列ぐらいあります。ハイエンドなオーディオ棚もあります。

中古チューナーとLPプレーヤー棚 綺麗に包装、展示しています。保障期間なども明記されています。



エンクロージャーだけでもあります。スピーカーの中古はもちろんですが エンクロージャーだけでも売っています。自作派向けです。

クは送料がかかるため大きな物や重量物の価格が比較的安価です。何故か真空管アンプは高価です。たぶんハイエンドオーディオマニアが・・・です。最近では壊れていても高値です。知人のエンジニア曰く「修理には時間がかかるため時間給計算すると赤字になる、それでも修理代は高くなるが修理依頼は絶えない。」と嘆いていました。もはやジャンクでも安価では入手困難になってきています。次

にお勧めな部品調達はご存じ「ハードオフ」です。何と言っても店舗販売です。(通販もアリ) 現物が見られるのです。また通電チェックなどの簡単なテストも行えます。筆者は電池単4、単3、各2本、006P、手のひらサイズのな～んちゃってOSCと接続ケーブル、マルチテスターを持参して行きます。さすがに最近では真空管時代の部品はほとんどありません。製品の

スタジオ夜話



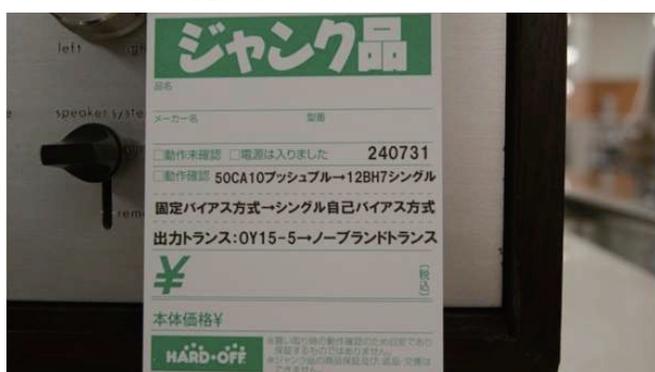
ハードオフのジャンク説明ラベルは面白い リペアスタッフの写真で説明しましたがこのスタッフが粹で面白い。



この棚はジャンクでも程度の良い方です。ジャンク B ランク? D もある。



その例がこのジャンク LUX アンプです。LUX38FD は SQ38 シリーズの管球式プリメイン アンプ。価格は ¥138,000 (1974 年頃) でした。現在ヤフオクの相場を見てみると 6 万円位でスタート 10 万円を優に超えて落札。このアンプの構成は出力管 50CA10 PP 約 30W × 2 出力トランスなどは定評あるシリーズとなっている。価格は税込み 88,000 円。



ジャンクとはいえ 88000 円はヤフオクと比較しても格安です。その理由が説明ラベルにありました。な〜んちゃって LUX なのです。筐体は本物ですが中身が PP からシングルに化け、トランスに至ってはノーブランドになっています。想像ですが 製作者は騙そうとしたのでは無く、壊れた 38FD を姿そのままに新たな復活をさせたかったのだと思っています。中身を確認していないので詳細は不明ですが製作者はかなりの達人と見ています。完動品ならば相応の価格かもしれません。感動品です。スタッフの作った説明ラベルにも詳細が書かれていました。スタッフのコメントも「もはや SQ38FD のカワを被ったナニカ状態です。」としていました。粋な表現ハードオフはしっかりと商品チェックでがっちり！ジャンクの説明ラベルが GOOD です。

高級アンプのジャンクは 1000 円程度、もちろん動きません。フロントパネルを自作して筐体は自作物のシャーシケースとして利用します。たまに簡単な修理だけで復旧する物もあります。またハードオフにはオーディオ機器だけではなく様々なものがあります。是非ご利用ください。

☆次回は

番外編「サウンドドラマ制作」のお話です。全方位での制作についてお話します。今回は筆者の趣味のお話でした。

参考までに筆者と意見がほぼ近い？人物が実際の修理や製作を手掛けている様子を動画としてアップしている非常に面白いサイトがあります。必見の動画サイトです。

宮甚商店 <https://www.youtube.com/@miyazin-shoten> です。



ほかにも「たまご TV」というハードオフジャンク修理専門的なサイトもあります。

<https://www.youtube.com/channel/UCWfilGvK5O5CnPPjrwFwW4w>



スタジオ夜話通常編もお楽しみに。

— 森田 雅行 —



本誌「月刊 FDI」にて、2002 年 4 月号から 2012 年 12 月号まで連載していた倉地紀子著「CG コンテンツ」129 編 (564 頁) は、連載開始から 20 年、また 11 年に亘った連載が絶筆となってから本年で 10 年目の節目となりました。

これを基に 2022 年 4 月号(272 号)から本文に再掲載し、全記事内容を当時のままに、2 巻にまとめて発行することと致しました。

なお、当誌にて掲載しております写真図版等はモノクロ印刷となっておりますが、当時は全頁カラー印刷でした。なお、その他の掲載内容は、当時のままといたしましたので、技術面での記載内容などが現状と異なる場合がありますのでご了承ください。

※フッターに掲載年月を表記してあります。

FDI2013ANNEXPART. 1

CGコンテンツ 総集編(PART 1)

2002.04 「モンスターズ・インク：テクノロジー・イン・デプス」- アーティスティックなリアリズムをつくりだした影の主役たち
 ~ 2008.03 3DCG 映画の成熟 - 映画「ビー・ムービー」の CG 技術

72編 285頁 頒価5,000円(消費税込み)

FDI2013ANNEXPART. 2

CGコンテンツ 総集編(PART 2)

2008.04 「IMAGINA2008」(前編) — イマジナワードと R&D セッション—
 ~ 2012.12 「フランケンウィニー」— ストップモーション・アニメーションの醍醐味を支えた VFX (絶筆)

57編 279頁 頒価5,000円(消費税込み)

※書店及びネットでは販売しておりません。お申し込みは、お問い合わせは、E-mail : editor@uni-w.com 月刊 FDI 編集部までご連絡ください。